

～ 昨日の風 明日の風 ～

経営コンサルタント 独白録

[第71回] 意識改革としての「5S活動」



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL <http://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家として、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

現代の企業組織が抱える最も大きな課題は、組織内の価値観の多様化です。地域格差、業種格差、世代間格差などが複雑に絡み合いどの組織でも組織全体をひとつの方向に束ねることが難しくなりつつあります。そうした社会の動きを受けて、国も働き方改革などという今までの企業や個人の自由度を狭めるかのような新しい概念の政策を打ち出し、そうしたものに対応する企業側へ新たな負担を求めるようになりました。

価値観の多様化の原因

1945年（昭和20年）当時の敗戦国日本は食糧難でした。その時に国民の最も大切なことは「食べるか、食えないか」ということでした。そしてきちんと食事ができるようになると次の欲求として「沢山食べられるか、食べられないか」ということが課題になりました。沢山食べられるようになると次に「うまいか、まずいか」が社会の望みとなり、うまいものが食べられるようになると「栄養価が高いか、低いかな」と要求の質が変化しました。社会はそうした国民の要求に応えるために発展をしてきました。

ところが、ここ数年のうちに食べるということに対する意識の大変化が起きました。「健康のために食べることを止める！」と叫ぶ人たちが出てきて、糖質制限や肉食制限、ダイエットと称した様々な方法が社会に流布されるようになりました。挙句の果てに、現代の若い女性たちのカロリー摂取量は終戦直後の食糧難の時代の女性達よりも少ないという現象を生み出しています。成熟した時代であるにもかかわらず栄養不良の女性が増えているのです。

こうした歪（いびつ）さは「お金よりも休みが欲しい」「残業はしたくない」「働く所はどこにもある」「休日出勤をさせる企業はブラック企業だ」と堂々と口にする若い世代と一脈通じるものです。つまり物事の【本質】から離れた考え方や行動の現れです。そして、メディアや識者がその歪さを指摘しないために多様化という名のもとに社会や組織の中の混乱を生み出しています。

【原理原則】に戻る

「価値観の多様化という混乱をどのように収束させれば良いのか？」という問いかけに対する答えは【原理原則に戻る】としか言いようがありません。原理原則とは、どのように生きるのか、どのように食べていくのか、どのような人生を送るのかという根本的な問いかけのことです。

「人間は動物である」「動物は食べなければ生きていけない」「食べるためには働かなければならない」「職場はその働く場所である」「そこで働く人たちは仲間である」「そのためには社会人、職業人として要求されるものがある」……。まるで幼稚園生に語るような話ではありますが、そうした根源的な問いかけに対するきちんとした答えがなければこれから先の組織は存在していきません。

社員の意識を整える

意識とは目に見えないものです。その目に見えないものを整えるためには、組織の中で統一した行動が必要です。そしてその行動を統一するために、整理・整頓・清掃・清潔・躰（しつけ）という5つの要素を組織内に展開し、組織の変化を目に見えるものにする【5S活動】が必要になります。

【5S活動】は単なる片付けや掃除ではありません。「断捨離」などという個人的なおまま事でもありません。組織と意識を整え存続と発展を遂げるための業種や事業規模とは関係のない最適なツールです。

来たる7月17日に福岡市内において【5S活動スタートアップセミナー】を開催します。5S活動の本質や利益の確保、人材育成までを詳細に解説いたします。昨年は北海道や東京、大阪からも参加者がありました。ぜひこの機会に組織を変化させるきっかけをつかんでいただければと思います。多数のご参加をお待ちいたしております。（詳細につきましては弊社ホームページをご覧ください）